

相模原・鶴の台小にプロ奏者

劇場、ホールではない日常の身近な場所で芸術に接してもらおうと、桜美林大の学生主催のアウトリーチ（地域への芸術普及）企画が24日、相模原市旭町の市立鶴の台小学校で開かれた。学生が招いたピアノニストの中川賢一さんが同校の音楽室で、小学4年生の児童約20人を前に華麗な演奏を披露した。

（桐生 勇）

コンサートホールと違って奏者の中川さんと児童の距離は1センチと。子どもたちはプロの演奏を間近で味わった。

中川さんはドビュッシーの「月の光」を演奏する際、湖面に浮かぶ月をイメージしてと触れた上で、教室

桜美林大生企画

ダンスと
融合も

のカーテンを閉め「目を閉じて聴いてみて」とアドバイス。児童らは中川さんの言葉と、しっとりとした音楽に想像を膨らませながら聞き入っていた。

中川さんは、ピアノに興味を持ってもらおうと内側を一部解体。中川さんが鍵盤を激しくたたきたびに、弦の上に投げ入れられた数多くのピンポン球が跳ね上がる様子を見て、児童らは歓声を上げた。音の小さなオルゴールをピアノの響板の上に置くと大きく共鳴する実験も。子どもたちはすっかりピアノの面白さに魅了され、演奏する中川さんのすぐ横で鍵盤の指先に見入ったり、ピアノの下に潜り込みながら演奏を聴くなどしていた。

また、児童や教諭が書いた抽象画6枚を見て中川さんが即興演奏を披露。桜美林大で演劇やコンサートホールでダンスを学ぶ学生らが演奏に合わせて振り付けを見せ、児童らは音楽とダンスの融合を喜んでいった。

4年生の安藤啓太さんは「絵を見てすぐに曲を創造できるのがすごかった」と満足げに話していた。

ピアノの面白さ身近に



ピアノニストの中川さんが鍵盤を激しくたたき、弦の上に入られたピンポン球が跳ね上がる様子を楽しむ子どもたち

相模原市立鶴の台小